

めいじよねんひつじしちがつしそくざいせきひっこしのさいのちすならびにかんしゃがくしょうげんざいす
「明治四年末七月士族在籍引越之際地図並官社学商現在図」

いっしき しほんちやくしよく めいじ ねん
 一鋪 紙本著色 明治4年(1871) 縦(南北) 135.5cm 横(東西) 164.0cm

本図は、廃藩置県当時の弘前城下の様子がわかる絵図です。一筆ごとに在住士族の名前が克明に記されているほか、明治4年(1871)以後、10年代頃までの各戸の変遷の様子も書き込まれています。上が南で下が北に描かれ、凡例には士族丁四十七ヶ丁、町屋郡四十二丁、寺社門前十七ヶ丁と記載され、名前の表記がない赤色と白系色は町屋を表し、名前の横に△や○印、「元ハ 今ハ」の表記があるものは移動したことを示していると思われます。名前の数は、約2,100件確認でき、そのうち上記の表記があるものは約25%にあたり、移動の多さがわかります。

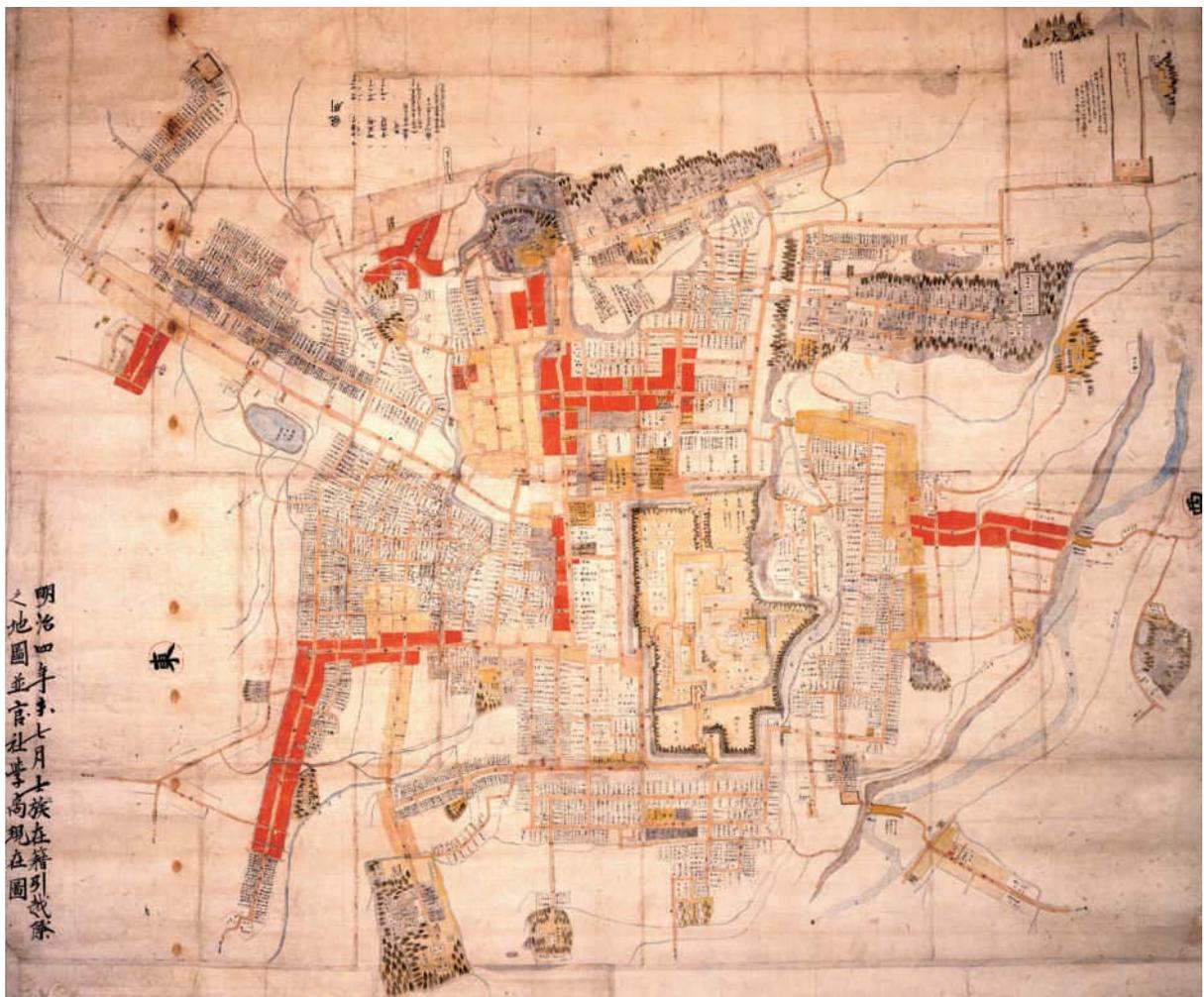
次に、弘前城内を見ると、現存する天守などの建造物のほかに、明治16年(1883)に取り壊されたとされる本丸御殿、二の丸・三の丸御殿、

下乗橋東側には馬場、三の丸御殿の北側には現存する枯山水庭園の「御庭」もみえます。

続いて、城下を見ると現在の茂森新町二丁目にあたる「古堀丁新割」や御幸町にあたる「富田新割丁」が新たに町割りされています。

りんご公園(常盤坂)には「大星場」が描かれ砲台の練習場があったこともわかります。

また、現在の南塘グラウンドがある南溜池には、「明治十一年五月ヨリ此地ヲ畑開梱ス。自彊、博習、敬業、知類、朝陽、盈進、亀甲、蓬萊、わとくかくしょうがっこう がくでん このたんべつよんちやうさんたんよんせいにじゅう和徳各小学校ノ学田トス此反別四丁三反四畝廿五歩」とかかれ、現存しない多くの学校とともに学田として使用されていたことがわかり、幕末から明治に変わる激動の時代を知る貴重な資料といえます。(成田正彦)



明治四年末七月士族在籍引越之際地図並官社学商現在図